

## 事業計画書

事業名	子育てママの「食」応援プロジェクト
場所	沼津市内全域
実施予定期間	平成29年 7月 1日 ~ 平成30年 3月 31日
日程	実施項目・作業項目
	<p>平成27年度乳幼児栄養調査（厚労省）では、乳幼児を育てている保護者の8割が「食」に関する困りごとがあると感じているという結果が出ています。</p> <p>現在、行政や病院においては、乳幼児健診が行われていますが、「食」の不安に対する相談体制は、ニーズに対応しきれていない状況であると考えられます。</p> <p>そのため、もっと気軽に悩みを打ち明ける場を提供し、同じ悩みを持つ保護者同士がつながることや、個々の相談内容に対応するための環境を整備し、安心して子育てに取り組むことができる社会を作るため、次の事業を実施します。</p> <p>目的：子育て中の保護者の「食」の悩みを解決し、こどもが健やかに育つ社会をつくる。沼津市で子育てをしてよかったと思える環境を整える。</p> <p>対象：沼津市内で乳幼児を子育て中の保護者</p> <p>内容：① プロジェクト周知のためのイベント開催 乳幼児とその保護者に栄養士が一般的な栄養講話を行い、その後子供の月齢数の近い保護者同士でのグループディスカッションを行い、グループごとに食の悩みを発表し栄養士がアドバイスを行う。 （参加者に授乳中の方にも安心な温かい飲み物とお菓子を提供） 募集人数 20名/回 開催日 2回（7月・11月を予定） 人員配置 栄養士2名/回</p> <p>② 離乳食や幼児食について悩みを抱える保護者（希望者）に対し、自宅訪問をして調理や食べさせ方などの指導を含めたアドバイスを行う。 （事情により訪問を希望しない場合はスタジオで行う） 募集人数 16名 開催日 期間中に16回（希望者の依頼にあわせて随時） 人員配置 栄養士1名/回</p> <p>（スタッフミーティング期間内5回）</p>
事業効果	<p>沼津市の人口減少に伴い、赤ちゃんの出生数が年々減少している。</p> <p>平成27年度乳幼児栄養調査（厚労省）の結果では、乳幼児を育てている保護者の8割が「食」に関する困りごとがあると感じていることが分かった。</p> <p>行政や病院での乳幼児健診時より、もっと気軽に悩みを打ち明ける場を提供し、同じ悩みを持つ保護者同士がつながることや、個々の相談内容に対応することで、「食」に関する不安や悩みを解決し、安心して子育てに取り組むことができる社会を作ることで、沼津市で家族を増やしたい、沼津市で子育てをしてよかったと思える環境を整えることで、ファミリー層の増加が期待できる。</p>

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

公益性	「食」に関する困りごとを抱えながら子育てをしている保護者に対し、食の専門家である栄養士が指導アドバイスをすることにより、保護者の不安や悩みを解決し、安心して子育てができ、子供が健やかに育つ社会をつくる。
発展性	子育て支援センターや子育てサークルの利用者や参加者へ周知をし、孤独な子育てで不安を抱える保護者が気軽に相談できる場所づくりをすることで、ひとりでも多くの「食」の困りごとを解決する。「食」に関する知識を持ち、正しい情報を得ることで、偏った食生活による子供の脳や発達の障害の予防や、将来に向けて健やかに育っていくための丈夫なからだを作る。
地域性	沼津市内に乳幼児の「食」の困りごとを気軽に相談できる場所をつくり、沼津市で子育てをしている保護者が孤独な子育てから解放され、悩みや不安を解決できる窓口をつくっていききたい。
必要性	平成27年度乳幼児栄養調査（厚労省）の結果では、乳幼児をもつ保護者の約7割が保健所や保健センターで離乳食について学んでいるにもかかわらず、8割の保護者が「食」に関する困りごとを抱えていることがわかった。 実際に行政や病院での乳幼児健診時は、保護者がゆったり相談できる時間や雰囲気がないため、気軽に相談できる場所や個々の相談内容に対応するしくみが必要である。
先導性	沼津市内で、現在離乳食や幼児食の悩みに対し、個々の相談内容に対応し自宅訪問をして調理や食べさせ方の指導アドバイスをしている栄養士がいないこと。 同じ悩みを持つ保護者のつながりを作ることで、個々の不安を解消できることが期待でき、子育てや家事のベテランであり、食の専門家である栄養士が具体的なアドバイスをすることにより、健やかな子供の成長と食生活の改善が期待できる。
継続性	これまで、講演会・料理教室等の実施により地域に密着した食育活動を推進してきたことから、本事業では、これまでの経験を踏まえ、より家庭に踏み込んだ食育指導の必要性・事業化の可能性を探っていきたいと考えています。 事業実施にあたっては、子育て支援センター・子育てサークルのほか、地域の放課後児童クラブ等の理解を得て、同事業の趣旨を広く周知していきます。